岐阜米穀㈱　メールマガジン

今回のテーマは「**農産物に欠かせない飼料**」

１月の配合飼料価格（全蓄種平均）が１トン当たり８万 3381 円となり、確認できる 1983 年以降で過去最高を更新したことが、配合飼料供給安定機構のまとめた飼料月報で分かった。前年同月比で 17.6%上昇。穀物相場の上昇や円安などの影響を受けた。

１月当時の価格を巡っては、トウモロコシはバイオエタノールの原料にも使われるため、新型コロナウィルス禍からの経済回復に伴う原油の高騰と連動し、相場が上昇。

大豆かすも米国や南米の生産量の下方修正などで相場が上がっていた。

世界中でバイオエタノールの使用が高い国が一時的に使用を制限すれば、食糧と飼料との両面で価格高騰を避けられます。

現在、トウモロコシはロシアのウクライナ侵攻や南米の作柄悪化の懸念を受け、さらに相場が上昇している。

JA 全農は 4～6 月期の配合飼料供給価格を 1～3 月期比で同 4350 円値上げすると発表している。
同機構は毎月、配合飼料の工場渡し価格や生産、在庫状況などをまとめた飼料月報を公表している。
畜種ごとの配合飼料の価格で前年同月に比べた上昇率が最も大きかったのは肉用繁殖牛。同７万 1924 円で、前年同月比 19.7%上がった。

値上げはこんなところにも・・・